

特別支援学級 第6学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 読んで、かんそうをもとう
～説明文を読んで紹介カードをつくろう～
- 2 教材名 「イルカのねむり方」 幸島 司郎 光村図書
- 3 単元について

<目標> 調べたことと分かったことと考えたことをとらえながら内容の大体読むことができる。
【読（1）イ】

<教材の特性>

「イルカのねむり方」は、「はじめ」「中」「終わり」の構成で書かれている。「はじめ」は問い、「中」は調べたこと分かったことと考えたこと、「終わり」に答えが書かれており、事柄の順序も分かりやすい。

<単元を貫く言語活動>

- ・紹介カード作り。

<児童の実態>

昨年度は漢字・音読・視写の学習に力を入れて取り組んできた。今年度は漢字の学習は4年生、読む学習は、3年生程度の教材を使用し学習を進めている。

児童名	普段の様子	付けたい力
A児	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間は同学年の友達と体を動かして遊んでいる。 ・語のまとまりをとらえて音読することができるが、話の内容を理解していないことがある。 ・濁音を清音で表記したり、ねじれた文章を書いたりすることがある。 ・漢字練習に意欲的に取り組む。 ・内容の大体をとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成就感 ・読み書き
B児	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間は低学年の友達と遊ぶことが多い。 ・興味のあるものには集中するが苦手なことを持続することは難しい。 ・話や指示を最後まで聞かずに作業をすることがある。 ・拗音・拗長音等の発音や書きの間違が見られる。 ・ねじれた文章を書くことがある。 ・叙述から読み取ろうとせず、耳で聞いたことから答えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成就感 ・読み書き ・コミュニケーション

<全員が「わかる」ための手立て>

- ・最後まで学習に集中できるように、授業の見通しがもてるような板書計画を工夫とパターン化した学習活動をする。
- ・語句のまとまりに気を付けて丸読みをさせる。
- ・叙述に着目しやすいように、線を引き読む範囲を限定する。
- ・紹介カードに書くことを明確にするため、色のちがう紙を用意して感想を書かせる。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	書く	読む	言語
イルカのねむり方に興味を持ち、進んで読もうとしている。	書こうとすることの中心を明確にし、紹介カードにまとめている。(1)ウ(中)	調べたこと分かったことと考えたことをとらえながら内容の大体読んでいる。(1)イ(低中)	文の中における主語と述語との関係に注意している。(1)イ(カ)(低)

5 単元の指導計画

次	時	学習内容	授業の工夫 *ユニバーサルデザインの視点	評価規準 (評価方法)
第二次	3	・文章の構成(はじめ・中・おわり)をとらえる。 ・問いと答えの文を見つける。	・文末表現に着目させる。(焦点化)	【読】はじめ・中・おわりの構成をとらえることができる。[シート]
	4 5 (本時) 6 7	・調べたこと1と分かったことを読む。 ・調べたこと2と分かったこと・考えたことを読む。 ・調べたこと3と分かったこと・考えたことを読む。 ・調べたこと4と分かったことを読む。	・文末表現に着目しやすいように読む範囲を限定する。そのため「調べたこと」に線を引かせる。(視覚化)	【読】叙述をもとに、調べたこと・分かったこと・考えたことを読み取ることができる。[発言・ノート] 【書】紹介カードの感想を書くことができる。[シート][紹介カード]
第一次	1 2	・学習の見通しをもつ。 ・イルカについて思った事や知っていることを発表する。 ・全員で音読する。 ・新出漢字、言葉調べの学習をする。	・調べたこと・分かったこと・考えたことに焦点化をする。(焦点化) ・紹介カード(教師自作)を示しをゴールであることを伝える。(共有化)	【関】「イルカのねむり方」に興味を持ち、進んで読もうとしている。[発言] 【言】教材文に出てくる新出漢字を正しく書いている。[ノート]

第三次	8	・紹介カードにまとめる。	・モデルの紹介カードを参考にまとめる。(視覚化)	【読】これまでの学習をもとに紹介カードをまとめている。[紹介カード]
	9	・紹介カードを交流して、感想を伝える。	・友達どうしで交流して、感想を伝え合う。(共有化)	【話・聞】紹介カードを交流し、感想を伝えている。[紹介カード・発表]

6 本時の指導

(1) 本時の目標

文末表現に着目して、調べたこと、分かったこと、考えたことを読むことができる。

(2) 個別の具体目標

児童	書く	読む
A児	・文の意味が明確になるように語と語の続き方に気を付けて書くことができる。	・文末表現に着目して読むことができる。
B児	・文章を指でなぞりながら、誤字脱字のないように書く。	・文章を見て音読することができる。 ・文末表現に着目して分かったこと・考えたことを見つけることができる。

(3) 本時の展開 (焦点化☆ 視覚化□ 共有化◇ 評価◎)

段階	学 習 活 動	指導の工夫	個別の配慮と評価
つかむ 15分	1 学習の見通しをもつ。 ・口の体操 ・漢字練習	・本時の学習の流れを確認する。 (口の体操・漢字→説明文) ・口をあけて声をしっかり出す練習をさせる。 ・漢字の読み書きや短文作りをさせる。	・口の形、声の大きさを意識させて発音させる。 ☆文末表現に着目しやすいように読む範囲を限定する。そのため「調べたこと」に線を引かせておく。
	2 課題の把握 (1) 課題の確認 調べたこと2で、分かったことと考えたことは何か。	☆調べたこと・分かったこと・考えたことを読み取ることを確認する。 ◇言葉のまとまりに気を付けて丸読みをさせる。	
まなぶ	3 課題の解決。 (1) 調べたことを読む。 ・およぐはやさ ・いきつぎの回数	☆手順を確認してから活動させる。 ☆□何段落を探しているか指や手で確認させる。 ・「この時間」をとらえさせる。	◎読む A児: 文末表現に着目して読むことができたか。 B児: 文末表現に着目して分かったこと・考えたことを見つけることができたか。

18分	(2) 分かったこと・考えたことを読む。	☆文末に着目させる。 ・教師と一緒にまとめさせる。	
	<p>【調べたこと】 およぐはやさと、(水面に上がって) いきつぎをする回数を調べた。</p> <p>【分かったこと】 夜中に、およぐはやさはゆっくりとなる。いきつぎの回数は少なくなることが分かった。</p> <p>【考えたこと】 夜中にねむっているのではないかと考えた。</p>		
いかす	4 紹介カードにまとめる。 (1) 「～思ったところ」をまとめる。	□書くことを明確にするため、おもしろいはピンク、不思議は青、分かったことは黄色の紙に書かせる。 □書けないときは、前時のまとめを参考にさせる。 ・早く書き終えたら読み直し誤字脱字を直させる。	B児：マス目のついた紙。 声を出して書かせるようにする。
7分	(2) 発表する。	◇良いところを相手に伝えさせる。	◎書く A児：語と語の続き方に気を付けて書くことができたか。 B児：文章を指なぞりしながら、誤字脱字のないように書くことができたか。
まとめる	5 ふりかえり	☆分かったことを書く。	・板書をもとに書くとよいことを励ましながら伝える。
5分	6 次時の予告	・次時の見通しをもたせる。	

<資料>

○板書計画

○ふり返り	【調べたこと】	【分かったこと】	【考えたこと】	○まとめ 課 調べたこと2で、分かったことと考えたことは何か。	【調べたこと】 ・調べました。 ・くらべました。	○文末を見て イルカのねむり方 幸島 司郎
	【考えたこと】				【考えたこと】 ・考えました。 ・ちがいがありません。	

○座席表

黒板

A児	B児
----	----

